

令和元年5月17日

国宝・重要文化財（建造物）の指定について

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和元年5月17日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、1件の建造物（新規1件）を国宝に、8件の建造物（新規6件、追加2件）を重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、国宝・重要文化財（建造物）は、2,503件、5,083棟（うち国宝227件、290棟を含む。）となる予定です。

◎今回の答申における主なもの

【国宝】 旧開智学校校舎

長野県松本市

旧開智学校校舎は明治9年に建設された。漆喰塗の外壁を持つ2階建の屋根上に八角形の塔を載せる姿は、洋風を基調としつつ和風の伝統意匠を織り交ぜて、擬洋風建築の特質を濃厚に表す。内部には級別の教室や広い講堂を備え、学校建築として先駆的な計画性を示している。近代の学校建築として初めての国宝指定となる。

【重要文化財】 真宗本廟東本願寺

京都府京都市

真宗本廟東本願寺の伽藍は幕末の大火で焼失した後に再興された。御影堂は17世紀中葉以来の規模と形式を継承し、伝統木造建築として我が国最大の平面規模をもつ。これと並び立つ阿弥陀堂は荘厳な内部空間を備える。御影堂門は我が国最大級の二重門である。近世以来の伝統木造建築技術による比類ない規模と高い格式を備えた近代の寺院建築群として高い価値を有する。

<担当> 文化庁文化財第二課
課長 大野 彰子（内線 2873）
課長補佐 田井 祐子（内線 3025）
調査部門 長尾 充、井川 博文（内線 2793）
審議会係 小島 学、森 弓乃（内線 3160）
電話：03-5253-4111（代表）

【国宝 新指定の部】

① 擬洋風の意匠をまとう先駆的な近代学校建築

(近代／学校)

旧開智学校校舎 1棟

所在地：長野県松本市

所有者：松本市

旧開智学校校舎は、明治9年に地元の大工立石清重により建設された学校建築である。立石は建設に先立って東京や横浜に赴き、当時最新の洋風建築の情報を収集した。木造2階建てで、正面中央に二層の車寄をつけ、その上方に八角形の塔屋を載せる。車寄は正面に龍の彫刻、上部の露台上に瑞雲の彫刻を飾り、その上の唐破風屋根に天使の彫刻を付した額を掲げる。外壁は漆喰塗で、腰石積と隅石積を鼠漆喰で擬似的に表現し、縦長窓を等間隔に並べるなど、洋風を基調としながら我が国の伝統意匠を織り交ぜる。内部は中廊下で動線を確保し、級別授業に対応した教室や広い講堂、教員控所などを整然と配置する。

旧開智学校校舎は、明治初期に地元の大工が最新の洋風建築を模範とし、伝統技術を駆使して建設した学校建築である。和洋の要素を用いて独創性豊かで優れた意匠の校舎に再構築するとともに、全国で盛行した擬洋風校舎の中でも先駆的な計画性と高い完成度を備えている。近代化を推進した開化期の洋風建築受容を示し、近代教育の黎明を象徴する最初期の擬洋風学校建築として、深い文化史的意義を有している。



【重要文化財 新指定の部】

① 華やかな内装の座敷蔵をもつ近代豪農住宅

(近代／住居)

旧柏倉家住宅 8棟

主屋、内蔵、仏間、前蔵、北蔵、

大工小屋、長屋門、裏門、土地

所在地：山形県東村山郡中山町

所有者：中山町

旧柏倉家住宅は、山形盆地西部の丘陵の麓、近くを最上川が流れる田園地帯に所在する。柏倉家は近世から近代にかけて紅花生産等で隆盛した豪農である。



写真提供 中山町教育委員会

主屋は明治31年に現在の形に改修された。近世の上層農家の形式を継承した大規模住宅で、座敷の拡張や銘木による精緻な内装に近代の発展を示す。漆塗や金箔で荘厳した仏間と室内を春慶塗で華やかに飾る前蔵は上質な座敷蔵で、村山地方における屋敷構えの特徴を示している。明治期の南東北地方における上質な農家建築として価値が高い。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

② 和風と洋風の生活様式の統合を目指した近代住宅

(近代／住居)

旧山崎家別邸 1棟

所在地：埼玉県川越市

所有者：川越市

旧山崎家別邸は川越市川越伝統的建造物群保存地区の東に位置する。地区内で菓子店を営む山崎家の隠居として大正14年に建てられた。設計は大正時代に多くの住宅建築を手がけた保岡勝也である。主屋は2階建の洋館に平屋建の和館と2階建の土蔵を接続して一体となし、外観は和風と洋風の意匠の取り合いを巧みに処理して調和を図る。和洋の多彩な接客室を機能的な動線で連絡し、通風や採光、防火に配慮して豊かな住環境を実現している。



撮影 小野吉彦

保岡が目指した、和風と洋風の生活様式の統合を体現する建物として、我が国における住宅の近代化の過程をよく示しており、高い歴史的価値を有している。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

③ 山中に優れた^{きょうち}境地を創出する壮麗な堂舎群

(近世以前／寺院)

永平寺 19棟

仏殿、法堂、山門、中雀門、僧堂、大庫院、
大光明蔵、監院寮、廻廊(5棟)、承陽殿本
殿及び拝殿、承陽門、経蔵、松平家廟所
門、舍利殿及び祠堂殿、勅使門

所在地：福井県吉田郡永平寺町

所有者：宗教法人大本山永平寺

永平寺は道元が寛元2年(1244)に開創した

曹洞宗の大本山寺院である。九頭竜川支流の永平寺川上流に位置し、谷沿いに広大な境内を占める。創建以来たびたび伽藍を焼失し、現在の堂舎は近世から近代にかけて整えられた。山門から中雀門、仏殿、法堂を一行に並べ、大庫院や僧堂と廻廊で連絡する。承陽殿は宗祖道元の廟所である。各堂とも規模雄大で、内部空間、細部意匠も優れ、永平寺大工らの力量が発揮されている。山中の自然環境と一体となった優れた^{きょうち}境地を創出し、今なお禅宗伽藍の規範となる壮麗な堂舎群として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

流派的又は地方的特色において顕著なもの



写真提供 永平寺

④ 輪中地帯に建つ意匠優秀な防災住宅

(近代／住居)

早川家住宅 8棟

主屋、裏座敷、洋館、辰巳庫、下男部屋、
辰巳隅職人部屋、飯米庫、西ノ庫、土地

所在地：岐阜県海津市

所有者：個人

早川家住宅は木曾三川下流域の輪中地帯に所在する豪農の住宅である。明治24年の濃尾地震で被災した後に再建に着手し、同37年に全体が完成した。主屋は木造平屋一部2階建てで、重厚な^{しきだい}式台を構えて高い格式を備え、内部は吟味された材料と優れた工芸技術により、室毎に趣向を変えた洗練された意匠とする。構造には独自の耐震対策を施し、水害対策として石垣で地盤をかさ上げし、さらに高い石垣上に飯米庫や西ノ庫を建てる。濃尾平野西部における意匠優秀な近代住宅として価値が高い。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

流派的又は地方的特色において顕著なもの



撮影 麓和善

⑤ 比類ない規模と高い格式を備えた近代寺院建築

(近代／宗教)

真宗本廟東本願寺 6棟

御影堂, 阿弥陀堂, 御影堂門, 阿弥陀堂門,

鐘楼, 手水屋形

所在地：京都府京都市

所有者：宗教法人真宗大谷派

真宗本廟東本願寺は、京都市街に壮大な伽藍を構える本山寺院である。現在の伽藍は元治元年(1864)の焼失後、幕末から昭和にかけて順次

再興された。御影堂は明治28年の建立で、17世紀中葉以来の規模と形式を継承しており、我が国最大の平面規模をもつ雄大な伝統木造建築である。御影堂と並立して両堂形式を構成する阿弥陀堂は、格式高く荘厳な内部空間を備えている。両堂の前には烏丸通に面してそれぞれ門を開き、御影堂門は我が国最大級の二重門である。比類ない規模と高い格式を備えた近代の木造寺院建築群として高い価値を有する。

- 指定基準＝意匠的に優秀なもの
- 技術的に優秀なもの



写真提供 真宗大谷派

⑥ 中世の威容再現をめざして近世に再興された大型建造物群

(近世以前／寺院)

根来寺 6棟

大伝法堂, 光明真言殿, 大門, 不動堂,

行者堂, 聖天堂

所在地：和歌山県岩出市

所有者：宗教法人

新義真言宗 総本山根来寺

根来寺は紀ノ川下流域、大阪府境の和泉山脈の南麓に所在する新義真言宗の総本山寺院である。

13世紀末に当地に教学の拠点が置かれ、16世紀半ばには大寺院に発展した。天正13年(1585)に羽柴秀吉の紀州攻めで伽藍の大半を焼失した後、近世に復興が進められた。大伝法堂は中世の威容の再現を志向して再建され、広大な内部空間をもつ。光明真言殿は巧みな構造技術により静謐で気品ある大空間を実現した。境内正面の大門は規模雄大な二重門である。これらの諸堂は根来大工を中心に大坂や越後の大工との協働により造営された。中世の盛期伽藍を志向し、近世に達成した本山再興の中枢をなす建築群として高い価値が認められる。

- 指定基準＝歴史的価値の高いもの

流派的又は地方的特色において顕著なもの



撮影 桑原英文

【重要文化財 追加指定の部】

① 重厚な屋敷構えの景観を整える塀

(近代／住居)

にし お け じゅうたく
旧西尾家住宅

そとべい うちべい
外塀, 内塀

所在地：大阪府吹田市

所有者：国（文部科学省）

旧西尾家住宅は吹田市街地の南部に位置する近世以来の大地主の住宅である。明治28年建設の主屋、大正15年上棟の離れなど7棟が重要文化財に指定されている。



敷地周囲の外塀は敷地の拡張にあわせ、明治後期には木造の塀が、昭和初期には鉄筋コンクリート造の塀が整備された。敷地内部を区画する木造の内塀は、明治後期から大正期に整備された。旧西尾家住宅の外塀と内塀は建設の経緯を示し、意匠も優れており、既指定の建物、土地と一体の価値を有するものとして、追加して指定して保護を図る。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

② 鳥取県最古級の重文民家の屋敷構えを構成する土蔵

(近世以前／民家)

ふくた け じゅうたく
福田家住宅（鳥取県鳥取市紙子谷） 2棟

かみ くら しも くら
上の蔵, 下の蔵, 土地

所在地：鳥取県鳥取市

所有者：個人

福田家住宅は鳥取平野南端、谷筋の紙子谷集落に所在する。福田家は近世には大庄屋に匹敵する家格を有し、主屋は17世紀前期の建設とみられ、鳥取県内で最古級の農家住宅として重要文化財に指定されている。



主屋の南には文政元年（1818）建設の上の蔵、主屋の西背後には文政6年（1823）頃建設の下の蔵が建つ。要所を海鼠壁や鏝絵で飾るなど家格にふさわしい意匠を持つ。福田家の土蔵2棟は、限りある宅地を巧みに利用した上層農家の屋敷構えを伝える重要な建物であり、土地とともに追加して指定して一体的な保護を図る。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

〈個別解説凡例〉

番号 特 徴 (年代区分／種類別)

名 称 員 数

複数棟指定の場合の建造物の名称、土地* 等

所在地

所有者

(* 建造物と一体をなして価値を形成している土地を併せて指定するもの。)

〈国宝・重要文化財の指定件数〉

(国 宝)

令和元年 5 月 答 申

	種 類 別	現在指定数		新規指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神 社	40	75			40	75
	寺 院	157	165			157	165
	城 郭	9	17			9	17
	住 宅	14	20			14	20
	民 家	0	0			0	0
	そ の 他	4	8			4	8
	小 計	224	285	0	0	224	285
近代の分類	宗 教	0	0			0	0
	住 居	1	1			1	1
	学 校	0	0	1	1	1	1
	文化施設	0	0			0	0
	官公庁舎	0	0			0	0
	商業・業務	0	0			0	0
	産業・交通・土木	1	3			1	3
そ の 他	0	0			0	0	
	小 計	2	4	1	1	3	5
合計		226	289	1	1	227	290

(重要文化財)

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神 社	577	1,237					577	1,237
	寺 院	862	1,226	2	25			864	1,251
	城 郭	53	235					53	235
	住 宅	97	155					97	155
	民 家	355	884			(1)	2	355	886
	そ の 他	195	268					195	268
	小 計	2,139	4,005	2	25	(1)	2	2,141	4,032
近代の分類	宗 教	29	44	1	6			30	50
	住 居	110	432	3	17	(1)	0	113	449
	学 校	43	82					43	82
	文化施設	39	77					39	77
	官公庁舎	31	60					31	60
	商業・業務	23	30					23	30
	産業・交通・土木	78	286					78	286
	そ の 他	5	17					5	17
	小 計	358	1,028	4	23	(1)	0	362	1,051
合計		2,497	5,033	6	48	(2)	2	2,503	5,083

※重要文化財の数は、国宝の数を含む。